

# ユーモアスピーチ船橋

2023 (R5) 年 5 月 11 日発行

ジョークは暮らしの調味料・ユーモアは人生のかくし味

196 回船橋ユーモアスピーチ

2023 年 5 月 11 日 (木) 3 分間スピーチ

スピーチテーマ 「うきうき」「薬」  
「自由題」「失敗題」

ロングスピーチ

川田 茂雄さん:「インドの会社で、定年後 10  
年働いて得たもの」

4 月 13 日の参加者: 常廣、石渡、山中、川田、入江、佐々  
木、辻内、松永、中久木、谷、山田、小林、町田、植野、  
長嶋 15 名

前回のロングスピーチ (4 月 13 日)

「水墨画の楽しみ方」

山田 正國さま

趣味は何ですか、と聞かれたとき、水墨画を描いて  
ます、と答えると相手は私には絵心がないので、との  
返事を聞くことがあります。しかし、人間発生したこ  
ろのネアンデルター人やホモサビエンス人 40 万年な  
いし 10 万年前の彼らが住んで居た洞窟の壁面に狩り  
をしている図形が刻まれており、その子孫である我々  
現代人には絵を描く才能の遺伝子は引き継がれている  
のではないかと日頃思っています。

私が水墨画を始めたのは仕事をやめる少し前、その理由は老後の生活に退屈しない  
ように、それから今まで未経験なことでした。それに一人でできる。自分がやってる  
ことで他人に迷惑をかけない静かにできること、これならうるさいなど周りから言わ  
れず済むから、続けられると思い水墨画を選びました。それにあまりお金がかからない  
こと。でした。

水墨画の楽しみとしては

- 1) 墨、紙、筆があればどこでも描ける。
- 2) 画材 (対象物) は油絵などと同じ自由である。
- 3) 書き直しができないため適度な緊張感と描き終えたときの達成感がある。
- 4) 展覧会などで、他人の絵もちろん有名な先生方の個展などを鑑賞する機会が増える。
- 5) 古典水墨画を見る機会も増えるし、知らなかった作者名にもであい、パソコンで調べる。
- 6) 少し上達すれば、他人にも見てもらい批評してもらおう。  
などなど楽しみは無限に広がる。

習い始めたころは、墨、顔彩などの乾燥前と乾燥後では全く色合い、風合いが異なり戸惑いました。また色彩墨の濃淡によっても同じ紙面でも滲み速度が異なります。それに筆の運び速度の遅速によっても滲み方が変わります。それをうまく利用するのが水墨画の醍醐味だろうと思ふ。また紙もいろいろ、一般的には画仙紙、麻紙、楮紙な



どの日本紙が使用されます。プロまたお金持ちの方々は手漉きのそれも無形文化財のこれまた一級の人作品たる画材を利用しているようです。またうちわ、扇子、色紙には描きましたが、大型の襖、衝立などには描いたことがありません。

水墨画は余白の芸術と言われてます。影を付けない、花鳥諷詠が基本、ちょっと描き足りないところで、筆を置くが基本とも言われて最近の傾向は画面全面描かれたものが多いのですが、私はスポーツマン、農作業者、僧侶画 など人物が好きです。筆も色々あります。習字に使うような筆、太く大きな筆、中心に狸の背筋の毛の入ったもの。筆を5本並べて連結した連びつ、幅の広い刷毛筆などあります。最後に自作品数点ご披露しました。ご笑覧いただきありがとうございました。 完

前回のロングスピーチ (4月13日)

### 「古典落語を一席 演題：鴻池の犬」

石渡 巧さま

演目：「鴻池の犬」の冒頭部分

ある商家の軒先に捨て犬があった。丁稚が主人の許しを得て黒、白、ぶちの子犬3匹を世話するなか、通りすがりの男から黒犬を欲しいという申し出がある。その男は、日を改めて吉日に再び来た。持参したのは、鯉節、酒、反物の数々。これを犬には不相応として断る主人。しかし、男曰く、自分は鴻池善右衛門の使いであり、そこで飼っていた黒犬が死んで以来、かわいがっていた同家の息子が気落ちしており、そのため見つけたこの黒犬がぜひとも欲しいと言う。いわば養子にもらうための贈り物、という経緯に主人も納得し、豪華な輿に乗せられもらわれて行く黒犬。・・・



石渡さん解説のキーワード

- ・お伊勢参り／おかげ参り／おかげ犬  
主人に代わり犬がお伊勢参りをした  
おかげ犬を丁寧に扱わないと神罰が下る
- ・江戸から伊勢まで人間の足で片道15日
- ・最盛期には日本人の6人に1人が参拝した
- ・浮世絵にもおかげ犬が描かれている (四日市、伊勢参宮宮川の渡し)

### 3分間スピーチダイジェスト テーマ 「温泉」「マナー」

川田 茂雄：「温泉」

先月末、兵庫県の日本海側に有る、城崎温泉に行ってきました。若い女性や外人さんで、大変賑やかでした。旅行客が多い理由の一つは、『外湯巡り』で、街の中に7つも有って、浴衣を着て巡るのが人気でした。我々の旅館は、小さな家族専用の風呂が二つ有りました。約40年ぶりに夫婦で混浴しました。残念ながら、何故か、ワクワク感は殆ど有りませんでした。今度城崎温泉へ行ったら、浴衣着の『外湯巡り』でワクワク感を楽しみたいと思います。

**中久木 一乗：「マナー」**

千代田区は 2000 年頃、夜間人口が約 5 万人に対し、昼間人口が約 100 万人あり、街の環境悪化がひどく、1999 年 4 月に罰則を伴わない「ポイ捨て禁止条例」をスタートさせ、マナーやモラルに訴えかけてきたが、ほとんど効果がなかった。歩きタバコは煙も火も大変危険だが 重要なことは、喫煙している人は、この迷惑や危険を認識していないことで、マナーもエチケットもモラルも、その種の気持ちを持ちあわせない人には関係が薄い。2002 年に「生活環境条例」を施行し罰則適用し、2014 年さらに改正した。果たしてルールがマナーを呼ぶか???

**山中 昇：「お伊勢参り」**

石渡さんが落語（鴻池の御曹司にもらわれた黒犬の話）を披露され、直後に配布された「お伊勢参りのおかげ犬」に関する情報を補完する形でいくつかの事実を紹介した。①配布された資料に引用されている浮世絵の中に、柄杓を持った二人のこどもの姿がある。これは、当時、子供が家出状態で沿道で施しを受けながら伊勢神宮参拝をする風習があったことを示している（おかげ参りの中の「抜け参り」。約 60 年周期のおかげ年に参拝ブーム起こる）。②当時の東海道は今の新幹線ルートとは異なり、熱田神宮を出たら伊勢湾を船で西進して桑名に到着。鈴鹿峠を越えて琵琶湖沿いの草津に入り、大津、山科を過ぎて京都に入った。③東海道 53 次は 55 枚の浮世絵で構成されている（起点の日本橋+53 箇所の宿場+終点の京都三条大橋）。④江戸と京都を結ぶ幹線道路は東海道と中山道の 2 本があった。距離は中山道のほうが長い、氾濫して通行止めになる可能性がある大井川や天竜川を川越えする東海道よりも安心だった。

**町田 雅和：「温泉」**

身近な温泉といえば、スーパー銭湯ですね、施設内では、温泉、食事、マッサージコーナーなどが楽しめます、さらには舞台があって、演芸や歌謡ショーが見られるところがあります。そこで考えたのですが、スーパー銭湯向けの演芸にピッタリなのは社会人落語家の落語じゃないか！公民館や小学校ばかりでなく、スーパー銭湯からお声が掛からないかなーと希望的観測を持ちました、でも知名度のない社会人落語家に出演依頼が来る可能性は極めて低いと気づきました、どのくらいの確立かですって、それはほんの、数パーセント（スーパー銭湯）お後がよろしいようで

**松永 成三郎：「血液型と性格」**

ヒトの血液型には若い人はもちろん我々世代でもほとんど普段は無関心です。ヒトの血液型は多い順から A, B, O, AB 型とありますが、昔から血液型と性格は何らかの関係があると言われてきました。すなわち、A 型の人はいくつでも真面目だが神経質、B 型は鷹揚で人付き合いが良いがマイペース。O 型は物事に積極的に対処し行動的、AB 型は天才肌の人が多く自己中心である、等々です。しかしこれらは現在多くの心理学者によって否定されています。ひと様々と言いますが、これらの特徴は多かれ少なかれ万人に認められるもので、本来血液型とは無関係です。

**山田 正國：「マナー」**

昨今スタジアムなどでスポーツを観戦した後、日本人が座席周辺を清掃し、外国人（特派員）が感心しているとのニュースをよく聞き、我々日本人には嬉しいニュースには違いない、ところが現地の清掃作業員にとっては自分たちの仕事がなくなり、今日の手間賃もらえなくなったとの、話も聞き善意の奉仕も難しい。

**入江 清之：「マナー」**

私のマンションの自治会会長は今月末でお役御免だが住民のマナーレスには苦勞した。ゴミ出しはゴミ収集日が週 2 回なのでゴミが積み上がるとゴミ袋を投げ捨てる住民。騒音は夜 9 時以降洗濯機や掃除機の使用を厳禁だが、騒音を出し周りの住民からクレームを付けられる住民。廊下や非常階段に私物を置くことは災害時の避難通路を塞ぐので禁じているが私物を置く住民など。今日は細かいゴミ・ゴミした話でした。

**佐々木 由美子：「温泉」**

No.1 は“北アルプスの白馬鑓温泉” 白馬三山縦走路で、鑓ヶ岳の中腹にある源泉かけ流しの温泉小屋。 \*男性の中にフランス人女性がたった一人入浴していた!! 堂々とした自然体でその姿に感心していると近くで嫌な気配が・・・一点をジッと見ているその目!! 注意でもしようものなら「ばばあ～なんて見ねえ」と、言いそうな下品な男。露天は諦めて女性専用に入ると、なんとそこは滝のように迸る湯量で溢れんばかり、変態の目つきも忘れ湯船に浸かった。極楽 極楽

**長嶋 秀治：「温泉」**

昔、山登りの後、温泉に入ることが多かった。一番古い記憶では 60 数年前、那須の三斗小屋温泉に入った。ランプの小屋で何とも言えない風情があった。谷川岳の下山後寄った谷川温泉も忘れ難い。大浴場から下の方に露天風呂があったが、残念ながら時間がなく入らずじまいだった。紅葉の時期に再度行ってみたい。最近では 5, 6 人で登っている山仲間も最盛期には 20 人くらいで登っていた。26, 7 年前帯名山に登って積翠寺温泉に入った時は 19 名が写真に写っている。あの時は賑やかだった。山仲間とゆっくり温泉に浸かりたい。

**植野 晏生：「温泉」**

私は温泉が好きだ。(結婚後の岡山赴任中はお城探訪や窯場巡りを兼ねて山陽・山陰・四国・北九州・南九州・中部地方などをドライブした折などに温泉巡りをした。) 古い温泉地では外湯巡りをする。例えば城崎温泉では 7 つある外湯巡りをする。朝一番に並ぶと木札をくれる。それを貰うのが趣味なのだ。他に草津温泉でも外湯の方が面白かった。



予告：6 月 「船橋ユーモアスピーチの会」

6 月 8 日 (木) 15 時 15 分～ 船橋中央公民館 4 階 第 2 集会室  
ロングスピーチ

松永 成三郎さん：「最近の読書から」

山中 昇さん：「日本の神様、仏様」

スピーチテーマ 「ふるさと」、「落し物・拾い物」、「自由題」